

# 学術機関におけるRDM支援業務担当部署・ 実施段階ワークシートの作成と公開

芦北 卓也 九州大学附属図書館  
<https://orcid.org/0000-0003-1853-7108>



## 研究データ管理の支援体制の整備といわれても

具体的なイメージがつかめない

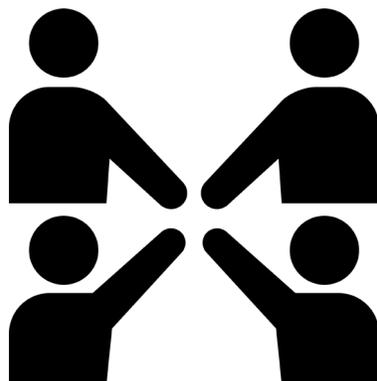
なにから始めてどのような方向性で進めていけばよいかわからない



これから取り組もう  
とする担当者

誰でも自由に利用できるスタートアップにぴったりの**便利な  
ワークシート**を作成しました

取組みをはじめる端緒になれば幸いです



国立情報学研究所  
研究データ管理基盤運営委員会  
RDM人材育成作業部会

# 学術機関におけるRDM支援業務担当部署・実施段階ワークシート

<https://doi.org/10.20736/0002002014>

名前 / ファイル	ライセンス	アクション	586
学術機関におけるRDM支援業務担当部署・実施段階ワークシート.xlsx (16 KB)		<a href="#">ダウンロード</a> <a href="#">Information</a>	views 
学術機関におけるRDM支援業務担当部署・実施段階ワークシートv2.xlsx (16 KB)		<a href="#">ダウンロード</a> <a href="#">Information</a>	

Item type	データ or データセット / Data or Dataset(1)
公開日	2025-03-13
タイトル	学術機関におけるRDM支援業務担当部署・実施段階ワークシート
言語	ja
言語	jpn
キーワード	
言語	en
主題Scheme	Other
主題	Research Data Management Skills
資源タイプ	
資源タイプ	dataset
ID登録	
ID登録	10.20736/0002002014
ID登録タイプ	JaLC
作成者	国立情報学研究所 学術研究プラットフォーム運営・連携本部会議 研究データ基盤運営委員会 RDM人材育成作業部会

Versions	
Ver.2	2025-06-10 07:56:39.1103 48
Ver.1	2025-03-13 01:57:41.7597 27
<a href="#">Show All versions</a>	
Share	
Cite as	
国立情報学研究所 学術研究プラットフォーム運営・連携本部会議 研	

学術機関におけるRDM支援業務担当部署・実施段階ワークシート.xlsx - Excel

ファイル ホーム 挿入 描画 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 開発 ヘルプ アンテナハウス Acrobat Power Pivot

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	略称	職名 (一例)	説明	担当職名記入例	担当職名	連絡先・備考	選択肢	実施段階
2	経営者	学長、理事、執行部、部長	研究機関やその部門の長、理事として経営を担う責任者	学長、〇〇担当理事			(未選択)	-
3	RDM	RDMコーディネーター (マネージャ)	全学または研究プロジェクトのRDMに関わる業務 (主に調整や統括的マネジメント) を専門的に行う担当者	〇〇本部RDM支援部門、図書館RDM支援室			(未選択)	-
4	図書	図書系事務職員	機関リポジトリなど成果発信に関わる業務の担当者	リポジトリ係 (附属図書館 〇〇課)			(未選択)	-
5	IT	情報基盤系技術教職員	情報基盤 (インフラ・ネットワーク) に関わる業務を専門的に行う担当者	〇〇担当 (情報システム部 〇〇課)、〇〇室 (情報システム部 〇〇課)			(未選択)	-
6	URA	リサーチアドミニストレータ (URA)	研究推進に関わる業務を専門的に行う担当者	研究推進 〇〇室			(未選択)	-
7	研推	研究推進系事務職員	研究推進に関わる業務の担当者	研究企画 〇〇課 (研究 〇〇推進部)			(未選択)	-
8	教務	教務系事務職員	教務系のうち、学生の論文の受理に関わる業務の担当者	学務 〇〇部 〇〇課			(未選択)	-
9	IR	IR担当職員 (IRer)	IR (機関研究) を専門的に行う担当者	IR担当 (企画部 〇〇課)			(未選択)	-
10	産官学	産官学コーディネーター、産官学担当職員	産官学連携、社会連携に関わる業務を専門的に行う担当者	連携 〇〇係 (研究 〇〇推進部 産官学 〇〇課)			(未選択)	-
11	知財	知的財産担当職員	特許、研究成果 (データベース含む) の著作権に関わる業務を専門的に行う担当者	知財 〇〇係 (研究 〇〇推進部 産官学 〇〇課)			(未選択)	-
12	契約	契約担当職員	共同研究時の契約を専門的に行う担当者	共同契約担当 (研究 〇〇推進部 産官学 〇〇課)			(未選択)	-
13	秘書	研究室秘書、事務補佐員	研究室等の事務全般の支援を担当する者				(未選択)	-
14	実験	実験・測定装置担当職員	特定の装置等による実験や測定を実施、支援を専門的に行う担当者				(未選択)	-
15	DS	(データ解析・分析に関わる) 専門職員・技術補佐員等	データサイエンスの研究者 (データサイエンティスト)、技術者 (データエンジニア)				(未選択)	-
16	その他	〇〇関係					(未選択)	-

ワークシートの内容

<https://doi.org/10.20736/0002002014>



ワークシートの基になっている表  
(業務を担いうる職種)

Preview

Code

Blame

20 lines (101 bytes) · 7.75 KB

Raw



Search this file

1	略称	職名 (一例)	説明
2	経営者	学長、理事、執行部、部局長	研究機関やその部門の長、理事として経営を担う責任者
3	RDM	RDMコーディネーター (マネージャ)	全学または研究プロジェクトのRDMに関わる業務 (主に調整や統括)
4	図書	図書系事務職員	機関リポジトリなど成果発信に関わる業務の担当者
5	IT	情報基盤系技術教職員	情報基盤 (インフラ・ネットワーク) に関わる業務を専門的に行う
6	URA	リサーチアドミニストレーター (URA)	研究推進に関わる業務を専門的に行う担当者
7	研推	研究推進系事務職員	研究推進に関わる業務の担当者
8	教務	教務系事務職員	教務系のうち、学生の論文の受理に関わる業務の担当者
9	IR	IR担当職員 (IRer)	IR (機関研究) を専門的に行う担当者
10	産官学	産官学コーディネーター、産官学担当職員	産官学連携、社会連携に関わる業務を専門的に行う担当者
11	知財	知的財産担当職員	特許、研究成果 (データベース含む) の著作権に関わる業務を専門
12	契約	契約担当職員	共同研究時の契約を専門的に行う担当者
13	秘書	研究室秘書、事務補佐員	研究室等の事務全般の支援を担当する者
14	実験	実験・測定装置担当職員	特定の装置等による実験や測定を実施、支援を専門的に行う担当者
15	DS	(データ解析・分析に関わる) 専門職員・技術補佐員等	データサイエンスの研究者 (データサイエンティスト)、技術者 (テ

Code Issues Pull requests Actions Projects Security Insights

main 1 Branch 0 Tags

Go to file

Code

研究データ管理支援  
人材に求められる  
標準スキル

M-Furu Add files via upload	23 Commits
images	2 years ago
search	2 years ago
LICENSE	2 years ago
README-for-feedback.md	2 years ago
README.md	2 years ago
about-rdm-skills-v0-1.md	2 years ago
category-code-01.csv	2 years ago
category-code-02.csv	2 years ago
category-code-03.csv	2 years ago
occupation.csv	2 years ago
rdm-information.md	2 years ago
skills.csv	2 years ago

README CC0-1.0 license

## 研究データ管理支援人材に求められる標準スキル

研究データ管理支援人材に求められる標準スキル (以下、標準スキル) は、研究の進展具合に応じて必要となる研究データ管理業務の種類と、支援人材に必要な知識・技術 (スキル) ・能力・行動特性の確認を行うことを目的として、策定されました。

標準スキルは、2021年9月17日に以下のリポジトリで、ver.0.1を公開しています。

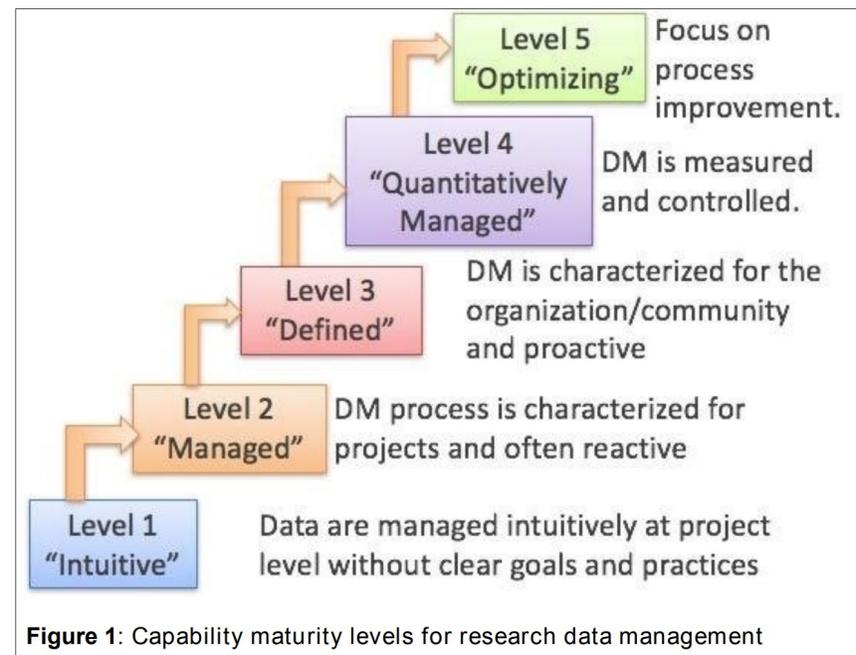
研究データ管理支援人材に求められる標準スキル(ver.0.1) <https://doi.org/10.20736/0002000219>

(標準スキルを作成した背景や作成方法などの詳細は、「[解説](#)」をご覧ください。)

<https://github.com/RCOSDP/rdms-skills/>

# ワークシート内の別シート

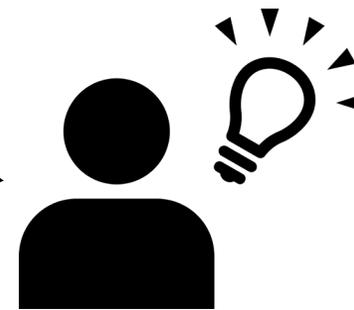
	A	B	C	D
1	実施段階1	実施段階2	実施段階3	RDM支援の連携例
2	-	-	-	(未選択)
3	第0段階	不完全な	実施していない(と思われる)	打合せや連絡をしたことがない(と思われる)
4	第1段階	実施された	必要に応じて(アドホックに)実施している	個別の打合せや連絡をしたことがある
5	第2段階	管理された	計画的に実施している、反復して実施できる	定常的な打合せや連絡をしている
6	第3段階	定義された	標準プロセスによって実施されている、文書化されている	会議や打合せの議事録を作成している、連携を制度化している
7	第4段階	定量的に管理された	統計が取られている、プロセスが数値化され客観的な指標が出せる	連携の実績が報告され、評価対象になっている
8	第5段階	最適化された	継続的にプロセスを改善できる、PDCAサイクルに乗せている	定常的な委員会等で問題が共有され改善が図られている



プロジェクトマネジメント等の自己評価でよく使われる成熟度モデルの概念を実施段階として流用

抽象的な実施段階を打合せや連絡の有無等で誰でも容易に自己判断できるように具体化

これならわかるかも



# ワークシートの入力方法

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	略称	職名（一例）	説明	担当職名記入例	担当職名	連絡先・備考	選択肢	実施段階		
2	経営者	学長、理事、執行部、部長	研究機関やその部門の長、理事として経営を担う責任者	学長、〇〇担当理事			(未選択)	-	-	-
3	RDM	RDMコーディネーター（マネージャ）	全学または研究プロジェクトの（主に調整や）を専門的に	〇〇本部RDM支援部門、図書館RDM支援室	部署名を入力		(未選択)	選択肢を選ぶと対応する実施段階が自動セット		
4	図書	図書系事務職員	成果発信に関わる業務の担当者	リポトリ係（附属図書館〇〇課）			(未選択)	-	-	-
5	IT	情報基盤系技術教職員	情報基盤（インフラ・ネットワーク）に関わる業務を専門的に担当する	〇〇担当（情報システム部〇〇課）、〇〇室（情報システム部〇〇課）	情報システム部 情報基盤課		個別の打合せや連絡をしたことがある	第1段階	実施された	必要に応じて（アドホックに）実施している
6	URA	リサーチアドミニストレーター（URA）	研究推進に関わる業務を専門的に担当する	研究推進〇〇室			(未選択)	-	-	-
7	研推	研究推進系事務職員	研究推進に関わる業務の担当者	研究企画〇〇課（研究〇〇推進部）			(未選択) 打合せや連絡をしたことがない(と思われる) 個別の打合せや連絡をしたことがある 定期的な打合せや連絡をしている	-	-	-
8	教務	教務系事務職員	教務系のうち、学生の論文の受理に関わる業務の担当者	学務〇〇部〇〇課			会議や打合せの議事録を作成している、連携を制度化 連携の実績が報告され、評価対象になっている 定期的な委員会等で問題が共有され改善が図られて	-	-	-
9	IR	IR担当職員（IRer）	IR（機関研究）を専門的に担当する	IR担当（企画部〇〇課）			(未選択)	-	-	-
10	産官学	産官学コーディネーター、産官学担当職員	産官学連携、社会連携に関わる業務を専門的に担当する	連携〇〇係（研究〇〇推進部産学官〇〇課）			(未選択)	-	-	-
11	知財	知的財産担当職員	特許、研究成果（データベース含む）の著作権に関わる業務を専門的に担当する	知財〇〇係（研究〇〇推進部産学官〇〇課）			(未選択)	-	-	-
12	契約	契約担当職員	共同研究時の契約を専門的に担当する	共同契約担当（研究〇〇推進部産学官〇〇課）			(未選択)	-	-	-

まずは職名と説明を確認

部署名を入力

選択肢を選ぶと対応する実施段階が自動セット

(未選択)  
打合せや連絡をしたことがない(と思われる)  
個別の打合せや連絡をしたことがある  
定期的な打合せや連絡をしている

プルダウンから選択可能

# 九州大学の入力例

	A	B	E	G	H	I	J
1	略称	職名（一例）	担当職名	選択肢	実施段階		
2	経営者	学長、理事、執行部、部長	総長、研究担当理事、情報担当理事、DX担当理事	会議や打合せの議事録を作成している、連携を制度化している	第3段階	定義された	標準プロセスによって実施されている、文書化されている
3	RDM	RDMコーディネーター（マネージャ）	・研究データ管理支援部門（データ駆動イノベーション推進本部） ・図書館DX支援室（附属図書館）	会議や打合せの議事録を作成している、連携を制度化している	第3段階	定義された	標準プロセスによって実施されている、文書化されている
4	図書	図書系事務職員	・リポジトリ係（附属図書館eリソース課）	定常的な打合せや連絡をしている	第2段階	管理された	計画的に実施している、反復して実施できる
5	IT	情報基盤系技術教職員	・情報基盤グループ（情報システム部情報基盤課）	個別の打合せや連絡をしたことがある	第1段階	実施された	必要に応じて（アドホックに）実施している
6	URA	リサーチアドミニストレーター（URA）	・研究企画・サポートグループ（学術研究・産学官連携本部）	個別の打合せや連絡をしたことがある	第1段階	実施された	必要に応じて（アドホックに）実施している
7	研推	研究推進系事務職員	・研究企画課（研究・産学官連携推進部） ・部局の研究協力部署	個別の打合せや連絡をしたことがある	第1段階	実施された	必要に応じて（アドホックに）実施している
8	教務	教務系事務職員	・学務部学務企画課	（未選択）	-	-	-
9	IR	IR担当職員（IRer）	・IR室（企画部企画課） ※教員、事務職員、学術推進専門員	個別の打合せや連絡をしたことがある	第1段階	実施された	必要に応じて（アドホックに）実施している
10	産官学	産官学コーディネーター、産官学担当職員	・連携総務係（研究・産学官連携推進部産学官連携推進課）	打合せや連絡をしたことがない（と思われる）	第0段階	不完全な	実施していない（と思われる）
11	知財	知的財産担当職員	・連携総務係（研究・産学官連携推進部産学官連携推進課）	打合せや連絡をしたことがない（と思われる）	第0段階	不完全な	実施していない（と思われる）
12	契約	契約担当職員	・受託共同契約係（研究・産学官連携推進部産学官連携推進課）	個別の打合せや連絡をしたことがある	第1段階	実施された	必要に応じて（アドホックに）実施している

- ・ 定例ミーティング
- ・ 中期目標・中期計画
- ・ 活動実績報告

システム導入時は定期的に打合せ

期待される実施段階は連携先や時期・状況によって異なってくるかもしれないなあ



## ワークシートの利用によって

- 実務的なレベルでステークホルダーを明確化できる
  - 用件に応じてどの部署に相談すればよいかわかる
  - 相談に行く際の論拠としても使える
  - いざという時のための連絡先としても使える
- 現在地がわかる
  - 連携できているか、いないか
- 目的地がわかる
  - どれくらい連携を深めていけばよいか
  - ※機関ごとの支援のありか次第



本セッションの最後にこのワークシートを利用した  
オンサイトでのワークショップを企画しています



「認知度」「データポリシー」「予算」「サービス体制」「ニーズの把握」  
「ITインフラ」の6項目から構成され、より広範囲な評価が可能な  
研究データ管理サービス成熟度モデルも公開されています

→ RDM Service Maturity Model

<https://github.com/y-minamiyama/RDMS-maturity-model>

同付録: RDMサービス成熟度モデル簡易評価ツール (XLSX)

[https://github.com/y-minamiyama/RDMS-maturity-model/blob/main/tools/RDMS\\_maturity\\_evaluation.xlsx](https://github.com/y-minamiyama/RDMS-maturity-model/blob/main/tools/RDMS_maturity_evaluation.xlsx)

※2020年9月に大学ICT推進協議会 研究データマネジメント(AXIES-RDM)部会及びオープンアクセス  
リポジトリ推進協会(JPCOAR)研究データ作業部会の所属メンバーによって開発